

553.66 : 550.85 (524) : 622.366

北海道石狩國美瑛硫黄鉛床概査報告

昭和27年6月19日から23日まで、標記硫黄鉛床を概査した。本鉛区は処女鉛区で、これまで全く調査が行われたことがないこと、鉛業者が開発を企図していることのために概査を行ったものである。

1. 位置・交通

本硫黄鉛床は北海道石狩國上川郡、美瑛川上流の北岸、すなわち美瑛町市街地南東方直距離25km、標高1.150m前後の山間にある。

富良野線美瑛駅—白金温泉間約20kmは國鉄バス、温泉—現場間約12kmは徒歩に依る。

2. 地形・地質

比較的急峻な地形を示す。地質は変朽安山岩およびそれより新期の多孔質安山岩および綠色凝灰岩より成る。すなわち、変朽安山岩の上部に薄い新期の安山岩が発達しており、その境界部に不規則に綠色凝灰岩の薄層を挟んでいる。

3. 鉛 床

「キャップロック」としての新期安山岩に被覆される変

朽安山岩および綠色凝灰岩を母岩とする。鉛染交代式硫黄鉛床を主とし、鉛床は主に美瑛川に沿つて露出している。露頭の延長は合計数10mに達する。一般走向N70°E, Sに緩斜し、幅は3m以上である。部分的に見込品位S30~40%の岩鉛を産するが露頭部分に於ける品位は一定していない。露頭の状況より判断して鉛量は比較的大であると考えられる。

4. 出願中の鉛区

札・通・受	24年345	100万坪	金・銀・銅・鉛・亜鉛・硫化鉄・硫黄
〃	24—246	〃	〃
〃	25—835	〃	〃
〃	25—732	〃	〃
〃	27—417	17.6万坪	〃

出願人は総て札幌市奥村鉛業株式会社である。

5. 結 論

硫黄鉛床としては比較的良好的鉛床と思われる。今後の調査に依り地質構造と鉛床の関係ならびに鉛量・品位を明らかにすることが望ましい。(菊池 徹)

553.43 : 550.85 (523.5) : 622.343

高知縣東豊永地区銅・硫化鉛床概査報告

長岡郡東豊永村西峰および南大王附近では、南小川北岸に三波川系結晶片岩(N60°E, 北傾斜)、南岸に輝綠岩と所々に蛇紋岩、珪岩、千枚岩、石灰岩が分布する。

当域内に銅、硫化鉛の露頭が三カ所にある。その中、西峰露頭は、輝綠岩と蛇紋岩の接触部周辺にN80°W, 70°S, 幅1~3m、南大王東3K露頭は、蛇紋岩に沿つ

た、それぞれ鉛染状の鉛体である。また、南大王露頭は輝綠岩中の石英脈2本幅30~35m、および之に随伴する鉛染状鉛体で、全て銅、硫黄品位低く、鉛床の價値は、現状ではわからない。(地質図1葉1/50,000)

(調査 稻井信雄・抄録 岸本)

553.55 : 550.8 (521.22) : 622.19

茨城縣富士山石灰石鉛山調査報告

茨城縣廳の依頼による調査。茨城縣多賀郡多賀町大久保にあり、常磐線多賀駅の西2km余の現場までトラックを通ずる。

開発以来100年の歴史を有すると云われ、現在500t/月(原石)を産出し焼石灰用に供する。

地質は古生層鮎川統に属し、千枚岩質粘板岩および珪質粘板岩を主とし、石灰岩を夾有する。鉛床附近の走向N50°E, 傾斜40°Sを示す。石灰岩に2種あり、1は白

色結晶質で他は縞状石灰岩である。本鉛床は後者に属し、厚さ30m富士山と称する小独立山を貫いて延長約100mを算する。

上盤側の「かぶり」が厚く、且つ鉛床北半は表土が厚く緩かな地形をなすため、小規模な露天掘に適するのは鉛床の南半、地表下10m程度に限られる。この故に實際の可採率は極めて低く、可採鉛量は3万7千tと見積られる。(安齊俊男・徳藏勝治)

553.41: 550.8(521.24): 622.19

群馬縣試登第3,225号鉞区調査報告

群馬縣利根郡桃野村北部の試登第3,225号鉞区は、いわゆる御坂層に対比される火山岩類より構成され、権者の言う通称水晶山附近は石英粗面岩からなる。含金鉞脈と称するものは本岩中に胚胎する脈幅2~5cm、延長数mの石英脈で数本知られ、その品位は Au 0.5~1.5

gm/t, Ag 15~29 gm/t 程度のものである。

地表調査の結果は、石英脈の発達小規模であり、品位も低く現在程度の露頭を以つてしては金鉞床として探鉞に價するものとは認められない。(林昇一郎)

553.32: 550.85(521.85): 622.332

山口縣玖珂鉞山附近調査報告

1. 山口縣玖珂地区鉞床調査の一環として玖珂鉞山附近の地質構造に重点をおき調査を行つた。調査期間は昭和26年6月17日~7月6日にわたる20日間で、玖珂鉞山実測の1/6,000地形図を使用した。

2. 調査地域は山口縣玖珂郡桑根村出合を中心とする地域で、山陽本線岩國駅より北西方約30kmにあたる。交通は錦川を遡り、國鉄バス渡里橋下車、さらに南方約4kmにて出合に至る。

3. 本地域は粘板岩・千枚岩・角岩・砂岩・石灰岩および珪質粘板岩・ホルンフェルス等の古期堆積岩よりなり、一部に角閃斑岩脈・スカルン岩等が見られる。基底をなす酸性深成岩は本地域の南方に広く分布する。

4. 古期堆積岩の走向は、おおむね東西で傾斜は北方へ傾き、鉞床附近は10~20°の緩傾斜をなす。本地域の撓曲、剪断等は東西方向よりの圧縮力および南北方向の

張力に起因するもので、本地域の鉞床の生成に関連して、低角度衝上断層と撓曲頂部の破断帯(剪裂走向N20~30°E)の2つの大きい地質構造が区別される。

5. 日堤谷(東西性)→梅ノ木鉞床東側(南北性)→さらに山ノ内部落を通つて東西に岩屋本坑へ抜ける低角度衝上断層帯は粘板岩・角岩層(石灰岩をはさむ)中に第一次鉞化作用による接触交代鉞床を胚胎した。また撓曲破断により生じた裂隙に沿ひ第二次鉞化作用によるタングステン石英脈を胚胎した。

6. 今後本調査結果を基礎として玖珂地区の露頭および坑内精査をする必要がある。河山鉞山、玖珂地区、喜和田、藤ヶ谷および岩國マンガク鉞床地帯にわたる一連の鉞床区の問題については、今後さらに地質および鉞床の調査をおしひろげて実施することが望まれる。

(調査 北 卓治・抄録 服部)

553.48: 550.8(521.16): 622.19

福島縣羽山ニツケル鉞山調査報告

本鉞山は福島縣伊達郡富田村にあり、同郡川俣町の西北方3km弱に当る。

地質は本鉞山の附近に見られるヅン橄欖岩と、その後に入しこれを囲んで阿武隈山地一帯に広く発達する黒雲母花崗閃緑岩があり、さらにこれらの中間帯には両者の接触によつて生成されたと思われる柘榴石、緑色角閃石等を含む花崗岩に近い混生岩を挟む。ヅン橄欖岩は本鉞床の母岩であり、鉞床はこの中に限られるものである。ヅン橄欖岩は厚さ約30m延長方向には約170m走向北30~40°東、傾斜南東方へ60~70°、の恐らく細長い舟底形を成して花崗閃緑岩中に存在するものと思われる。

鉞床は母岩と延長方向を同じくする幅1~3mの淡緑色ヅン橄欖岩部にあるNi含有部分と、さらにこの中にある幅約30cm前後の帯状鉞染富鉞部と、この外露出分布範囲にはほぼ該当する原地残留土壌等からなる。母

岩をなすヅン橄欖岩中にも多少のNiを含有するのが普通である。

構成鉞物は主として紅砒ニッケル鉞(径1~2mm)、硫砒ニッケル鉞(径1mm)からなり、その他これらの周囲には珪ニッケル鉞と思われるもの、僅かに磁硫鉄鉞の細脈等が見られる。富鉞部には磁鉄鉞を伴うことが多く、クローム鉄鉞等も観察される。この外Ni富鉞部に近い淡緑色ヅン橄欖岩部には脈状または絨状に黒色纖維状のルウドワイヒ石があり、その未決定鉞物が2,3見られる。

本鉞床は昭和18年頃土地の人が轉石を発見し、同26年3月現鉞業出頭者が露頭を発見して探鉞を開始したもので、調査当時は露頭部の表土除去とその下方25mの水準より坑道掘による探鉞を行つて坑口より18mに達し富鉞帯に着鉞していた。したがつてまだ探鉞開始後日なお浅い状況にある。(木村 正・郷原範造)